

ごみの減量化・リサイクル通信（第1号）

～湯河原町・真鶴町～

令和8年8月発行

湯河原、真鶴は、美しい豊かな環境に恵まれた町です。

この環境を次世代に向けて守っていくためには、ごみ問題は大切な取組のひとつです。

両町のごみ問題の特徴は、ごみの量が多く、リサイクルが進んでいないことです。その方策として、まず、これまで燃やしていたプラスチックごみを分別・リサイクルすべきと考えています。これらは、住民や事業者の皆様のご協力が何よりも大切です。

皆様への情報提供として、定期的にニュースを発行します。どうぞ、よろしくお願いします。

今のごみの現状です(県内 33 市町村での比較)

ごみの排出量は経年的に微減傾向が続いていますが、次のような課題があります。

- 1人1日当たりのごみ排出量が多い(県平均値 753g/日)

湯河原町 1,451g/日(県内 33 市町村のうち 32 位)真鶴町 1,115g/日(31 位)

- 資源化率(リサイクル率)が低い(県平均値 24.3%)

湯河原町 17.9%(30 位)真鶴町 20.6%(27 位)

- ごみの分別が進んでいない

県内で、プラスチックごみの分別実施していないのは、湯河原町、真鶴町のみです

可燃ごみ※の中身です

可燃ごみの中身を見てみると...



紙類が約4割



プラスチック類が約2割

→燃やさないでリサイクル可能な「資源物」が大量に含まれています。



厨芥類(生ごみ)が約2割

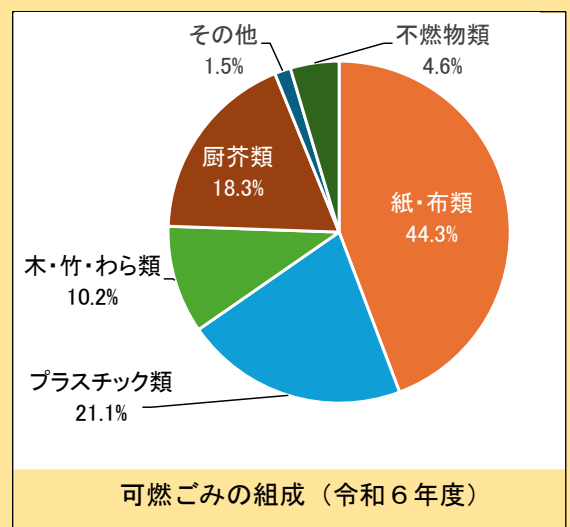
→まだ食べられる食品も生ごみに含まれています(食品ロス)。

→水切りを徹底するだけでもごみが減らせます。

・1人当たりのごみ処理経費



年間 44,708 円もかかっています(令和6年度)



※可燃ごみは、湯河原町内にある美化センターで焼却処理し、センター内の最終処分場で埋め立てています。

裏面へ

まず、プラスチックごみの分別・リサイクルを考える

ごみの減量として、プラスチックごみを焼却処理から分別してリサイクル化することにより、次の効果があらわれます。

- 脱炭素化
プラスチックの焼却は大量の温室効果ガスをもたらします。プラスチックごみを燃やさないことで、脱炭素化につながります。
- 資源の循環
プラスチックごみのリサイクルにより、プラスチック原料に生まれ変わります。限りある資源が有効利用されます。
- 最終処分場の延命化
ごみを焼却処理する場合、焼却灰が残ります。この焼却灰は、最終処分場で埋め立てています。最終処分場を長く使っていくためにも、減量化は重要です。

プラごみ等資源化減量化検討委員会がスタート

委員長にフェリス女学院大学の佐藤教授をお迎えし、町民や経済界の代表の方々の参加による検討委員会を発足しました。5月25日(月)に第1回を開催しました。

～いただいた主なご意見～

- ・資源ごみの売却益を「見える化」すれば住民の協力意識向上になる
- ・リユースの仕組みを導入してはどうか
- ・週3回の可燃ごみのうち1回をプラスチックごみの収集に振り替えるなど検討してはどうか
- ・町民の皆さんは状況を知らない、ごみの状況についてお知らせしてほしい
- ・プラスチックを可燃ごみで捨てることに罪悪感を覚える町民もいる。プラスチックの分別収集の早期実施をお願いしたい
- ・分別の効果や目標を示した方が、住民のモチベーションが上がると思う

皆様のご意見、ご参加をお待ちしています

ごみの分別・リサイクルは、暮らしの中での行動からの取組が大切です。お一人お一人が「ごみを減らそう、しっかり分別しよう」という意識を持っていただくことで、多くの町民の皆様のご意見をお聞きしながら進めます。

- 検討委員会の傍聴席を用意しています
 - すべての資料はホームページで公開しています
- ご意見をお待ちしています。

湯河原町役場環境課 ☎0465-63-2111 内線 551～553

真鶴町役場税務町民課 ☎0465-68-1131(代表)